

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500220		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グループホームグッドケア・東町(2階)		
所在地	室蘭市東町3丁目21-3		
自己評価作成日	令和 2年 11月 20日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月 28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500220-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500220-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年4月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム2ユニットで連携をし、協力し合いながら利用者・入居者の生活の支援を行っている。季節に合わせた行事を合同で行う等、交流の機会を多く提供している。フロア内は大きな窓ガラスがあり、日当たりが良くゆったりとした空間の提供をしている。立地は道南バスのバスターミナルが傍にありご家族様が面会の際には交通の便は良い。地域交流については、町会行事・幼稚園・保育所との交流に力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、国道36号線沿いの東町バスターミナルから徒歩3分にある交通の便利な場所に立地し、近隣は商業施設や小学校、高校、病院、大和公園などに囲まれた環境にある。商業施設が多い中、東町町内会や十字町内会の2つの町内会に加入し、行事や避難訓練で交流を行っていたが、コロナ禍のため町内会・幼稚園・保育所園児との地域交流が出来ない状況となっている。家族とも面会自粛のため、職員の手紙を添えた写真入り広報(利用者毎)を毎月作成し、年4回発行の「グッドタイム通信」で行事の情報や誕生会、事業所の情報を伝え家族の安心と信頼につながる支援となっている。また、職員は事業所内で季節を感じてもらう取り組みや、行事開催時は職員による三味線演奏と民謡を披露し、利用者の癒しやストレスの軽減に努めている。利用者のケア情報は、日々の介護記録に記録され、細やかなケアは次回介護計画作成につなげている。職員研修は、法人研修や3か月後研修等でスキルアップを図り、室蘭グループホーム連絡会の研修で更に知識の向上や介護の在り方について学んでいる。災害対策は新たな感染症災害や想定外の災害などからマニュアルを見直し、作成の検討をしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月あるフロア会議で話し合い、理念を共有しながら日々実践しています。	開設当初からの理念を基に、利用者が地域の一員としてその人らしく暮らし続けられるよう、職員全員で新たな理念作成の検討継続中である。また、理念は共用空間に掲示しており、朝のケア会議で話し合い、理念の意義を学び共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	東町町会と十字会の2つの町会に加入し、毎年町内のゴミ拾いや花壇づくりの活動に参加していたが、コロナウィルスが流行し参加出来ていない。	2つの町内会に加入しており、町内会活動の参加や事業所の災害訓練に住民参加を得る等の交流をしていたが、新型コロナウイルス感染のため交流は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、地域運営推進会議に地域の方々にも参加して頂き意見や質問に対応し包括センターや高齢福祉課の方々も来られ話し合いの場を設けていますが今年の春からコロナウィルスが流行しているので話し合いが出来ていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、町内、包括、ご家族、近隣住民等の参加があり、認知症についての事例報告などで認知症に対して理解を深めて頂ける取り組みを行っていましたが、コロナウィルスが流行し推進会議は行っていない。	コロナ禍のために運営推進会議は行っていないが、行政には利用者の状況や事故、ヒヤリハット報告、介護に関する取り組みなどを報告をしている。これからは書面会議として開催し前述の報告を運営推進会議の各委員に配布し、意見・要望の把握に努める。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者や包括センター、病院のソーシャルワーカーの方と入退去情報や個別ケースの相談など協力関係にある。また、運営推進会議に参加して頂いて情報共有していますが、3コロナウィルスが流行し推進会議は行っていない。	管理者は重要案件や事故報告で担当者窓口に出向き、事業所の取り組みや運営状況等を報告し、担当者から意見や助言を得ながら、運営に反映させている。新型コロナウイルス関連の情報は文書やFAXで伝えられるなど協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止の研修に参加するなどして身体拘束について学び、理解に努めています。現在ホーム内での身体拘束はありません。また、身体拘束委員会を設置し毎月目標を立ててフロア内に掲示する事で、不適切なケアが無いよう取り組んでいます。	法人による身体拘束等適正委員会を3ヶ月毎に開催している。内部研修で毎月目標を立て、会議で取り組みや達成できたか、また不適切なケアが無いかを確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で高齢者虐待防止について学び、スタッフ一人一人が虐待を見逃す事のないよう意識して業務にあたるよう努めています。			

グループホームグッドケア・東町(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、自立支援についてはユニット会議等で理解に努めている。後見人制度は他に比べて機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様へ説明し、疑問や不安などがある時は、その都度対応しています。また、入居中のサービス内容や特変時の対応、退去時の条件等などもご説明させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かあれば直接職員や管理者がお話しを伺い、運営推進会議でもご家族様のご意見は運営の参考にさせて頂いています。フロア内に意見箱を設置し、ご家族様からの要望や意見を取り入れる環境を設け、運営に反映させております。	毎月家族向けに担当職員から写真入り個人広報を作成し手紙を添えて郵送し、利用者の状況を伝えている。事業所会報誌「グッドタイム通信～東町～」を年4回発行し、事業所内の状況を報告し、家族に電話等で意見や要望を確認し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議で職員同士の意見交換 提案を話し合い、それを運営に反映させております。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、職員会議やケア会議等で職員からの意見や提案を聞く機会になっている。感染症対策には、業務を通しながら提案を職員間で出し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の勤務状況や希望休みを把握し、課長と話し合いながら、スタッフそれぞれがやりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。旅行の長期休みなどは職員同士、休み希望が被らない様に調整し、リフレッシュをして、仕事のストレスをためない様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で社内研修を行い、スキルアップに努めている。外部研修については、研修案内用紙を回覧して促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会の会議や研修に参加し別事業所との交流はコロナウイルスが流行しているので研修等ははしていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご家族様やご本人との面談を設け、要望や不安を理解する事で、安心して入居して頂ける様に対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や不安なことなどを聞き、対応を一緒に考えながら信頼関係を築くように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者はサービス利用開始時に、ご家族様、ご本人様と話し合いをし、必要としている支援を考え、職員に伝えて一致団結しながらサービス提供に努めてまいります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中で、共に喜怒哀楽を感じ信頼関係を継続させていく姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来られた面会時に最近の入居者様の様子を伝えていきます。また、遠方のご家族様には電話で様子を伝え、ご家族様と一緒に支えていく関係を築ける様、努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に外出し、ご家族とショッピングに行ったり外食を楽しまれています。馴染みの美容室や旦那様の命日に合わせて親戚が面会に来られ、ご自宅に戻る日があったりと、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めています。	コロナ禍により、家族と馴染みの場所や外食等の外出は自粛している。管理者と職員はテレビ電話を活用したり電話をかけるなどして、利用者と家族の関係継続に努めている。毎月来所の理容師と2ヶ月に1回来所の美容師は利用者にとって馴染みの関係となっており、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、孤立しないよう、少人数での余暇活動も取り入れております。また、意思疎通が困難であったり孤立している時は、職員が中に入り調整しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、なにか困ったことがあったらいつでも連絡下さいとご家族様に伝え、連絡来たときは相談にのりフォローに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で入居者様の思いを意向を把握しユニット会議や毎日の申し送り・介護記録等なので、情報を共有し、ケアプランに反映しています。	利用者の思いは日々の会話や表情から思いを汲み取り、困難な利用者は家族の情報や関わりの中の雰囲気などからも思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、生活歴、日々の関わりの中で得た情報をセンター方式に共有し、把握し周知に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況把握は、コミュニケーションしながら表情や言動を注意して観察し、1日3回の申し送りを行い、全スタッフが入居者様の状態の把握に努めている。また、経過記録に記載して他のスタッフにも情報共有して、現状把握をしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し、サービス担当者会議で入居者様の課題、ニーズにあったプラン作成しております。毎月のモニタリング。個人記録で変化がある時は随時、見直しを行ってまいります。	利用者と家族の意向や要望を聞き、日々の詳細な個人介護記録や毎月のモニタリング、会議で出た意見を基に現状に即した介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月で作成し、家族の承認を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人ごとの記録に個々の様子を記録し、日々の業務で気づいた事はすぐにスタッフ間で話し合い、またユニット会議で情報共有しながら介護計画の見直しを図っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の買い物支援や遠方でご家族様が来れない入居者様の受診付添い・送迎を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週土曜日にボランティアさんが来られていたり、近くの保育園児が来られ交流の場の支援を行っていたが、コロナウィルスが流行の為、来られていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医の往診や週3回看護師の巡回で日常の医療管理を行っています。特変時は速やかに受診対応し、ご家族に報告しております。	かかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。月1回の協力医や歯科医の往診、週3回の母体法人の看護師による巡回体制で利用者の健康管理を支援している。往受診記録は全員の詳細な記録から職員全員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師の巡回の中で、入居者様の心身状況、気になる事を相談・報告し、指示や助言をもらい、適切な受診や看護を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特変時や急変時は、速やかに連絡し指示を仰いでもらっております。入院時は、医療機関の主治医や医療関係者と綿密に連絡をとり、経過や退院時期を確認しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、「重度化した場合の対応に関わる指針」を示して重度化した場合や終末期に向けホームでの対応可能な範囲をご説明しております。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」の説明と、事業所でできることを伝えて同意書を得ている。現在24時間医療体制はとれていないため、重篤時は協力医と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを元に急変時や事故対応発生時の対応に備えています。又、社内研修でも緊急時における対応を学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て年2回(日中・夜間 各1回)火災訓練を実施しておりますが、コロナウィルスが流行し消防署が来られなくなり、立ち合いなしで消防訓練を行っています。	コロナ禍で消防職員や地域住民の参加は自粛している中、昼夜想定した避難訓練を年2回実施し、災害訓練記録を基に次回の訓練方法の気づきになるよう取り組んでいる。コロナ禍ではあるが、災害発生時には周辺企業や町内会と協力関係を築いている。備蓄についても整備されている。	複合災害に向けた避難経路や家族および町内会等への連絡網の及び周辺企業や町内会との協力関係の再確認しながら災害体制とマニュアルを再整備することに期待する。また、国を挙げての感染症予防であるコロナ禍は一つの災害に相当するため、感染症対策についてもマニュアルに追加していくことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段関わり合いの中での言葉遣いなど気を付ける様努めています。また、言葉遣いに問題があれば、その都度注意し改善しております。	理念を念頭に、職員全員は利用者の人格や尊厳を損なわない言葉づかいや態度に気を付けるようにしている。各種個人記録もプライバシーが守られるよう適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の表情や行動から読み取り、また思いを聞き取れるよう配慮し、納得した暮らしが出来るよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望はすぐには応じられない場合もありますが、時間を置いて答えている。また、余暇活動は小単位に分かれ、個々の好みやペースに合わせた内容をご提供しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある装いの支援、毎月第一水曜日・訪問理容室の機会を確保していましたが、3月からコロナウィルスが流行し、来れる時のみとなっています。		

グループホームグッドケア・東町(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間分の献立をフロアに掲示して、その日の献立を入居者様と確認をしている。入居者様と一緒に台所に入りコミュニケーションを図りながら食事の準備や片付けを行っている。食事は会話しながら楽しんで召し上がって頂いています。	献立と材料は母体法人が対応し、誕生食や行事食は利用者の希望や好みを取り入れたメニューで食事を提供し、利用者も職員と一緒に準備や食器ふきなど出来る事を行うなど、食事を楽しめる様工夫をしている。コロナ禍で外食ができないため、土地柄もあり、海鮮食等で食事で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い食事の提供を行っています。食事形態は入居者様一人ひとりに合わせた形態で提供し、状況に応じて対応できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身でされたり、声掛けや見守りなど入居者様に合わせた支援方法で、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、仕草から尿意を察知したり、それに合わせた声掛けやトイレ誘導など排泄自立支援に努めております。	利用者個々の排泄パターンをチェック表で把握し、さりげない促しや言葉かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。リハビリパンツやバット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や体操やレクなどで体を動かす機会を設けておりますが、腸の働きも低下しており、整腸剤や下剤などでコントロールし便秘予防しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本にするも希望があれば対応している。入浴時は入浴介助の職員と会話や歌を唄いながら楽しく入浴して頂いています。	週2回の入浴を基本に支援を行い、希望の入浴時間や長く入りたい利用者の希望にも対応している。足ふきマットも都度交換し感染予防に努め、入浴時には職員とお喋りしながら楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、十分な安眠・休息が出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報に基づいて、職員間で確認を取っています。また変更時は連絡ノート及び口頭にて周知、理解できるよう支援しています。薬剤師が月2回薬セットにいられた際に、入居者様の薬についてお話を訊いたりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴などから情報を基に、レクリエーションや家事・趣味などで楽しく過ごせるよう支援しています。毎日、自立されている入居者様に、食器拭きや、お盆拭き、コップ拭きなど担当を決めてお願いしています。		

グループホームグッドケア・東町(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物、気分転換の為に日常外出できる機会を提供している。また、花見、果物狩りなど季節に合った外出行事が出来るよう年間行事に取り入れていたましたが、コロナウィルスが流行し外出レクは行っていない。	コロナ禍で花見や七夕、夏祭り、敬老会など外出出来ない状況で、桜の木の貼り絵やお花畑を職員と一緒に作る等、職員は様々な工夫をしながら室内で季節を感じられるよう支援している。また、看護師指導による階段の昇り降りなどしながら、外出に変わる支援で利用者のストレス軽減や体力向上に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所での管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には、電話や手紙の対応をしています。又、ご家族からの電話をつなぐ等支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクの時間に入居者様と一緒に四季折々の貼り絵のポスターを作り、少しでも季節を味わって頂いております。フロアでは、洗濯物をたたんでもらったり、ソファに座ってテレビを見たり、体操や入居者様に紙芝居を読んで頂いたりして過ごされています。	広い居間の南側に大きな窓があり明るく、共用空間には季節の飾り物や貼り絵などが飾られ居心地よく過ごせる環境となっている。また、空気清浄機や加湿器を新たに購入して感染症対策に配慮した環境になっている。行事として職員による三味線や民謡を披露し、利用者を楽しみを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではくつろげる様に椅子の配置等に配慮しています 又、希望に応じて、いつでも居室に戻れるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ที่ใช้慣れた日用品や仏壇などをお持ちいただき、居心地の良い空間になっています。	馴染みの家具や鏡台、テレビ、思い出の品や家族の写真が飾られており、居心地よく過ごせる居室となっている。清掃は職員と一緒にを行い、清潔ある居室を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が出来る限り自立し、安全で安心に生活出来る様環境も整えながら、支援しています。		